通巻420号 2018年8月1日発行
花かがみ(No.420) 2018年8月1日

花かがみ
HANA-KAGAMI

'18 8

発行人／小笠原 誓　発行所／名古屋園芸株式会社
〒460-0005 名古屋市中区東桜2-18-13 tel. 052-931-8701
http://nagoyaengei.co.jp/

名古屋園芸

変り咲朝顔図　高輪其堂　明治四十年頃画

青掻爪竜葉紅覆輪総風鈴獅子咲牡丹
園家其堂は千葉市川の住、明治後期、東京朝顔研究会発足以来、同会の専属記録園家として昭和前期まで活躍。精密な描き方は現今の写真では到底真似のできない、所謂「真を写して余り有る」とはこうした図を云うのであろう。　亮軒記

＊名古屋園芸　変り咲朝顔展　九月上旬まで
毎日午前九時～午後二時まで、店内にて。

Green Life
多肉植物のキホン

↑ヒマワリブーケ　¥2,000＋税

バースデーフラワー
～ヒマワリ～

草木の緑も一段と濃くなり、蝉の声が聞こえる季節になりました。暑さが身にこたえるそんな8月におすすめのバースデーフラワーはヒマワリです。

ヒマワリとは、高さが30～400cmほどまで生長するキク科の一年草です。原産地は北アメリカ。英語でも〝SUN FLOWER〟＝〝太陽の花〟と言うように、多くの方が思い浮かべる夏を代表する花で有名です。

大きな1つの花のように見えるヒマワリも、実際は2種類の花弁で形成されているというのは割と知られていない情報かもしれません。これは多数の花が集まって1つの花を形成する頭状花序（とうじょうかじょ）と呼ばれるキク科の植物に見られる特徴です。外輪に黄色い花びらをつけた部分は、舌状花（ぜつじょうか）と呼び、中心の黒っぽい部分は筒状花（とうじょうか）と呼ばれます。筒状花には雄しべや雌しべがあり受粉して種をつけます。こうした視点でヒマワリを眺めると楽しみ方もまた変わってきそうです。

品種に関しては100種類以上あると言われています。「太陽のような形をした、草丈の高い、夏に咲く黄色い花」というイメージが強いですが、品種改良も進み、草丈10cmほどの鉢植え向きの品種もあれば、花色も黄色以外にレモン色やえんじ色、花の咲き方も一重だけでなく八重の品種などもありバラエティーに富んでいます。

フレッシュで元気なイメージの一重咲き。ふわっとした優しいイメージの八重咲き。シックで大人な雰囲気の茶褐色品種。贈られる相手によってイメージが自由に変えられるのもヒマワリの面白さの一つとなっています。

ヒマワリは暑さの厳しいこの時季でも日持ちが良く、また、ボリューム感もありリーズナブル点もおすすめです。今月はヒマワリメインでコーディネートされたフラワーギフトはいかがでしょうか。

↑ヒマワリベーシックアレンジ　¥3,000＋税

↑ヒマワリBOXアレンジ　¥5,000＋税

名古屋葵朝顔祭 後日記

夏の風物詩のひとつである、朝顔。皆さんは当店で開催しておりました「名古屋葵朝顔祭り」は御覧いただけたでしょうか？

今年で第3回を迎え、名古屋園芸の夏の象徴となりつつある朝顔小屋を1階東側入り口に設置し朝顔を販売しました。まるで日本最大の朝顔市である「入谷の朝顔祭り」に出かけているかのような雰囲気に、お客様はもちろん通行人の方も足を止めてご覧くださいました。

販売した限定200鉢の朝顔は、種まきから鉢上げ、支柱立て、ツル巻きと、すべて名古屋園芸で自社栽培いたしました。1鉢に4本の朝顔が植え込んであるため、そのボリュームとともに、開花する花の色をお楽しみいただけたかと思います。

また、この季節にぴったりのお中元の品として、カゴ入りの朝顔もご好評いただきました。ぜひ、来年のお中元の品に当店自慢の夏の風物詩をご検討いただけると幸いです。

そして当店隠居、小笠原左衛門蘭亮軒による「名古屋朝顔」も展示しました。

ツルを伸ばさずコンパクトに仕立てた「名古屋朝顔」は丈は短いですが手のひらサイズの大輪の花を咲かせます。こちらは朝顔の色を引き立たせる名古屋朝顔専用の鉢に植えこんでおり、より風情のある一品となっております。ミニサイズの和傘による演出で、より和の雰囲気をお楽しみいただけたのではないでしょうか。

今年の「名古屋葵朝顔祭り」は終了してしまいましたが、ぜひ来年7月にまたご注目いただけると幸いです。

↑名古屋園芸の夏の象徴である朝顔小屋です。
風が吹くたび風鈴の音がしてとても風流ですよ。

↑7号鉢に4本植えこんでいる朝顔！
今年のオリジナル団扇と一緒に…！

←名古屋朝顔はコンパクトな株ですが、
花が大輪で印象深いですよね！

information

2018年10月～2019年3月『花の講座』のパンフレットが出来上がりました

この季節はハロウィン、クリスマス、お正月とイベントが続きます。それに合わせて自分で製作したアレンジメントや寄せ植えを飾ることにより、より一層楽しめるとおもいます。講師も日々花々に触れ、常にお花と接している店頭スタッフが担当しますので、楽しくおしゃべりしながら「旬」の花々と楽しんでみてはいかがでしょうか。

店頭でパンフレットをお配りしております。また名古屋園芸HPからでもカリキュラムの内容はご覧いただけます。

◇お申し込みは
花の講座専用電話　TEL：052-937-3391
受付時間　月～金曜日　9：00～17：00
Webでのお申し込みは24時間OK！

名古屋園芸　検索　こちらからもどうぞ →

花の博物館 第271回

料理装飾

いも百珍

珍古堂主人輯　一冊
文化十三年丙子年（一八一六）河内屋直助刊

小笠原左衛門尉亮軒

八月に入ると、早堀の新甘藷が店頭に並び、名古屋の隠れた名物「鬼饅頭」が和菓子屋に並ぶ。著者亮軒は、第二次世界大戦の終戦時は小学六年生、戦中戦後は食糧難に見舞われた。その結果焼跡のやせた土地で育てたサツマイモに品種「應国」、その後登場した「農林一号」によって生命を助けられた。現今の「金時」や「紅あかり」などの美味なること、七十年前には夢の味のような気がする。つい甘藷の話になると感傷的になり申し訳ない。

さて甘藷は薩摩国山川の漁夫利右衛門が宝永二年（一七〇五）琉球から持帰って故郷に植えたのが我国での栽培の始まり。享保十九年（一七三四）青木昆陽が栽培書「甘藷考」を著し、我国各地での栽培が広まったと云う。

本書の刊行は本州で甘藷栽培が行われて七十年以上の経過を見るが、すっかり庶民の食物として馴染み深いものとなった。嘉永二年（一八四九）版元が蔦り、「甘藷百珍」と改題された後刷本もある。

内容は百二十三種に及ぶ、甘藷の料理手引書である。